

シーサイドライン車両基地にて広報イベント



自衛隊神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 荒木3等陸佐）は、3月30日（土）、シーサイドライン車両基地（横浜市金沢区）で5年ぶりに開催された「シーサイドラインフェスタ2024」に参加し、広報ブースの出展と1/2トトラックの車両展示を実施した。

自衛隊ブースでは、能登半島地震での災害派遣活動の写真展示に多くの来場者が足を止め、震災の規模を再認識するとともに、道路が寸断されて報道機関も同行できなかつた過酷な現場での自衛隊の活動の様子や炊事支援や入浴支援等の様子を写した写真を見て感銘を受けた様子だった。また、1/2トトラックの車両展示では、たくさんの子供たちが運転席に座ってハンドルを握り、カメラに向かってうれしそうにポーズをとっていた。

自衛隊ブースでは、広報官による自衛官の採用制度の説明なども実施し、自衛隊の活動や入隊などに関する来場者の質問にも丁寧に回答した。中には、「最近募集は厳しいの？」と自衛官の募集環境が厳しいことを気にかけてくれる方もいて、広報官一同「しっかりと頑張らなければ」と気持ちを新たにしていた。

上大岡募集案内所は「今後も地域の方々と密接に連携し、一人でも多くの市民に自衛隊を理解してもらえよう、より多くのイベントに参加して防衛基盤の拡充を図っていききたい」としている。

横浜高等学校柔道部にて指導員ボランティア活動



自衛隊神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 荒木3等陸佐）の高田2等陸曹は、4月2日（火）、私立横浜高等学校（横浜市金沢区）において、柔道部での指導員のボランティア活動を行った。

高田2曹は、小学4年生から大学4年生までの13年間柔道に取り組み、防衛大学校勤務時に同校柔道部の顧問や監督として6年間指導にあたった経験を生かし、今回、横浜高校の進路指導担当の教諭との調整により、休暇を利用して指導を行ったものである。

当日は、部員10名のほか、入学予定の中学生5名が練習に参加し、高田2曹から投げ技や寝技のコツに関する指導を受けながら反復練習を繰り返し行うなど、約3時間にわたり汗を流した。

練習では、「技に入るタイミングはどのようにすればよいのか」などと質問する生徒もいて、高田2曹は、実技を交えながら、体さばきや足さばきの重要性について詳しく指導を行った。

また、練習後には、自衛隊体育学校や全自衛隊柔道大会のことなど、自衛隊でも柔道が盛んであることを説明し、顧問の教諭から、指導に対する感謝のほか、「体育学校の研修などの機会があれば、是非参加をしたい」との言葉をいただくことができた。

上大岡募集案内所は、「今後も、学校からの要望に出来る限り対応するなど、連携を更に深め、自衛隊の魅力を伝えていきたい」としている。